

ありがとうございます 心で人をつなぐ

ヤマシナ印刷株式会社 山科 森

創刊
記念号

— 後編 —

「ごかやまローカルかわら版創刊記念号として、ローカルかわら版の発起人・山科森氏を紹介します。」

その間にお子さんも3人生まれましたが、奥さんは慣れない土地での3人の子育てに追われる毎日に体調を崩してしまいます。このままではいけない。家族が安心できる場所に引っ越そうと、仕事のあてもないまま会社も辞め、奥さんの実家のある大阪に引っ越します。

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人のつながり」で紹介していきます。

※この記事は「NGOダイバーシティとやま」さんの「ダイバーシティとやま」な日々の記事を編集したものです。詳しくは下記サイトを覗いてください。

<http://blog.canpan.info/diversity/>

子供の頃、土日も関係なく働いている親の後姿に誇りを感じていた山科さん。その会社が悲鳴を上げている。

実際、町の印刷会社には大きい印刷機があるわけではありません。まして、各家庭にパソコンが普及し、印刷屋の仕事はどんどん減っている。そんな中でも社長は、「1人でもヤマシナ印刷を利用してくれるお客さまがいる限り会社を続けたい」と言いました。それなら……と腹をくくった山科さん。家族を大阪に残し、単身小矢部に戻りました。会社を立て直すために、リストラをすることに、オ

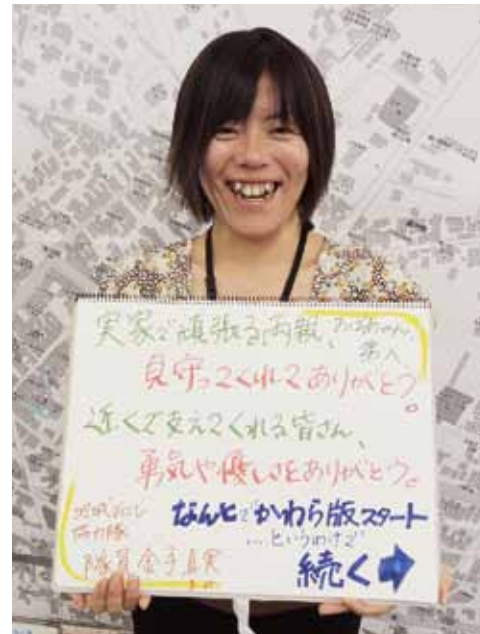
ペレーター全員が辞めることになりました。30年近く働いてくれた社員たちです。断腸の想いでしたが、そうするしかありませんでした。

「当時オペレーターが全員辞めることになったのは、大きなショックでした。でも、だからこそ『今がある』という感謝の気持ちで一杯です。」
それまで印刷会社の仕事を全くやめたことがなかった山科さん。1年間は毎日が徹夜のような日々でした。ガムシヤラに仕事に取り組んでいくうちになんとか一通りの仕事はこなせるようになりまし



社長が「たとえお客さまが一人になっても会社を続ける」と言った時から腹は決まっていました。

儲けることを優先する前に、やるべきことがある。散り際にみんながら「ヤマシナ印刷さん、ありがとう」と言っている会社にしてほしい。自分が出会った人を最大限支援する、そのスタンスは多くの人に安心感を与え、色々な人が本音で山科さんに話をしてくれるようになりました。色々な人に話を聞くうちにA店とB店をつなげばこんな利点がある、そういう事もたくさん見えてくるようになりまし



しかし、そんな毎日が続く中で「この仕事は、果たして世の中の為になっているのか?」という葛藤が生まれました。

この葛藤を払拭しようと思つて始めたのが地域SNS「サーブス」(Yabe Local SNS)でした。

昔はコミュニケーションをとるために不可欠な存在だった印刷物。そのツールがネット等にとつてかわってしまったとはいえ、やはり、印刷会社はコミュニケーションツールを提供してあげることが使命だ、と山科さんは考えま

「3年前の自分では考えられなかったことを今やっている。お金はないけど、人脈はとてつもなく広がった。」
それが山科さんにとっての最大の財産であり、きつとこのネットワークがこれからの富山を動かしていくに違いありません。



ヤマシナ印刷株式会社

〒952-0821
富山県小矢部市鷺島37-2
TEL : 0766-67-0627
<http://www.yamasina-print.co.jp/>

記事：NGOダイバーシティとやま
代表 富田 妙子
編集：金子 真実



ごかやまローカルかわら版 編集長 金子 真実

はじめまして！今年の4月から、南砺市の『地域おこし協力隊』として活動を始め、今回、記事編集を担当させて頂いた金子真実(まみ)です。特技は声楽！志村〇んさんとトトロの森で有名(?)な東京都・東村山市の出身です。野菜や樹木の栽培、手入れが好きで、甘いお米の育つ富山の「水」に魅かれて引っ越しました。

これから、「ごかやまローカルかわら版」をスタートする予定です。今後も紙面でお会いできたら光栄です！！どうぞよろしくお祈りいたします！！